

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  
取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	そよ風憲章 基本理念	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	8:30AM 朝礼時 全員で唱和し周知徹底を図っている。 職場での引継時基本理念を読み上げている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・出入口の掲示板に貼り出しているとともに、ご家族には理念を送付して理解に努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者様との散歩、買い物等で挨拶、会話を交わしたり、施設外壁に無料相談等ののぼりを立て、施設等内の説明等も行っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭典には自治会の一員として職員がお手伝いに参加、子供みこしの歓迎、地域の方々の慰問も随時受け入れている。地域文化祭にて作品の出展・見学を実施している。街角コンサートにも出掛けております。中学校の運動会より招待を受け見学に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	無料相談、ポスティングの実施。 来所された方へ施設の案内、パンフレット等の配布を実施している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の結果の改善点をふまえ、夕礼時等の会議にて話し合いを実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月一回開催している。会議規則に基づき役場・地域代表者・利用者より行事報告、利用者の状況、サービス提供の状況、事業所サービスの要望・助言などについてお伺いしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	中之条福祉事務所、草津町役場、住民福祉課の相談、書類提出等においても直接お伺いしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	中之条福祉事務所職員の方が、利用されている方へ定期的にお見えになるので、お話を伺い、夕礼会議時学習している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の意義を理解するとともに、一人ひとり学習し、自らの行動・言動を見直していく等、研修した知識を共有している。また、不審なことがあれば管理者への報告をお願いしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	自宅へ伺い、ご本人・ご家族とともに重要事項説明書内容を、詳しく説明したうえで、お考えを聞くよう心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活のコミュニケーションの中で、ご本人の意向に沿って対応している(買い物の外出・食事作り等)	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、そよ風新聞・行事報告を兼ねて生活されている様子を手紙にて報告。小口預り金については、台帳をコピーし同封している。ご家族様の面会時・電話等でも随時近況報告を実施している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	提案箱を設置とともに、提案して頂くよう文章を掲示しお願いしている。重要事項説明書内にも受付担当者を掲載し、説明を実施している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夕礼会議(毎日) グループホーム会議(月一回) 全体会議(月一回) 会議等を通じて意見・提案の話し合いができる機会を設けている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表の作成時、予定している行事・受診日等を考慮し、利用者様への支援ができるよう対応している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は行っていないが、日常よりユニット間の交流を図り、行事・受診時においてもコミュニケーションを心掛けている。	○ 両ユニットの介護度が異なるため、利用者様との一層のコミュニケーションが必要と思われるため少人数で職員の異動を考えていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場に設置してある学習ファイル内容について随時学ぶことと、業務の分担で責任感と果たす役割の自覚を求めている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・見学会に参加し、情報交換等を実施している。群馬ブロック(桐生、太田、草津そよ風)会議を月一回実施している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意向を取り入れ、適材適所の役割ができるよう配慮している。	○ 業務上の悩み等に関する上司への相談をしやすくしたり、職員相互の親睦などでストレスをためない様、日々取り組んでいく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実績優秀なセンターへの表彰、個人については能力に応じたの昇給。より以上の学習のための研修参加をさせている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実施調査の際、一回のみでなくご本人の話を十分伺い何が不自由なのか、したいことは何かを聞きだせるよう心掛けている。また、「不安等いつでも相談に乗りますから、遠慮なくご連絡ください」等、配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実施調査の際一回のみでなく、ご家族の話を十分伺い何を求めているのか不安に思われていることなど十分な説明を心掛けている。「不安等いつでも相談に乗りますから遠慮なくご連絡下さい」等配慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をお伺いした上で、ご本人・ご家族にとってより良いサービスの利用が受けられるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人・ご家族に入居前に施設の見学をお願いし、お茶の時間の雰囲気等を感じていただくよう一日の生活の様子を説明し、入居される際の判断となるよう心掛けている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中での会話を重視し、昼食作りでの共同作業をしながら、料理の先生にもなって頂いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の意向・背景を踏まえ、ご本人の生活状況を計画書に反映したケアを実施している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人のご家族への生活状況を手紙・電話等でお伝えするとともに、面会時にはお茶を出して団欒の場となるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居の際お話し、ご近所の方の面会を歓迎しており、面会者もおられます。また町の保険センター地域のイベントに参加し。知人の方と話をされる機会を支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居時より性格等配慮したうえで、デイルームでの席順、入浴時の声掛けに配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	そよ風新聞の発送を継続し、「何でも相談してください」と言葉添えている。ショートステイの利用をして頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話・コミュニケーションを重視しケアの創意工夫とともに、ケアプランに反映されている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実地調査でのお伺いした内容を書類に記し、内容の周知徹底を図っている。入居されたのちの情報は随時共有できるよう夕礼会議にて報告している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに沿った支援し安寧な生活とその人らしく生活できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師の意見を反映させ問題を的確にとらえ把握したうえで、カンファレンス会議を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院後にととまらず、問題があれば随時カンファレンス会議を開催し見直しを実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活を時間に沿って記入する欄と備考欄を一日一枚で記入している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院以外の専門医に受診の際の送迎、買い物希望時などにおいても送迎を実施している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方は運営推進会議の委員として依頼し、消防署の方は、避難訓練の指導・立会いをお願いしている。 学生の方のボランティアを受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご家族に相談の上、滑らない靴、コールボタンに代わるインターホンの購入、ご本人に合った車椅子のレンタルなどを含め、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域支援グループ・地域福祉権利擁護事業専門員の職員の訪問あり、交流を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人の意向を尊重し、主治医を決めている。 専門医受診の際はご家族に体調変化及び、経過報告をお話して付き添い受診を実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご本人はもとより周囲の利用者様においても言葉かけや対応について配慮している。個人情報については個人情報保護方針に基づき、鍵のかかる保管庫整理し持出禁止とするとともに不安なものはシュレッターにかけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で強制することなく、ご本人希望に合わせ馴染みのものを自由に持ち込むことができ、安心して過ごせるよう配慮している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が落ち着いて生活できるよう、また家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことで混乱を防ぐための工夫をしている。(トイレ・居室等の目印)	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出張サービスの理美容師にご本人の希望を職員ともにお伝えし、対応している。起床時の洗顔の際、鏡に向かい整容につとめている。入浴時着替えについても、利用者様の意向に沿って用意している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食作りについては平成19年8月4日より利用者とともに実施し、見守りだけでなく一緒に食事を摂ることで共に楽しんでいる。片付けについても、負担のないよう食器拭き・洗米等も一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりの摂取カロリー、水分補給、栄養バランスを一日を通じて把握に努めている。希望の品は買物にて購入したり、ご家族に依頼し、送っていただいで対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつをできる限り使用しないで済むよう、排泄パターンを把握し、不安や羞恥心、プライバシーを配慮している。排泄の誘動・介助は周囲の人に配慮しながらさり気ない言葉掛けで対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体状況を把握したうえでご本人の希望に応じた支援をしている。天然温泉のため何時でも入浴できるが夜間入浴は希望者がいないため行っていない。温泉を好まない利用者には真湯入浴にて希望に合わせて支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は決めてないが、利用者様に応じて入眠を促し、就寝時・更衣介助等の支援をしている。空調にも注意を払っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫物、料理作り・洗米・食器拭き等、利用者様の負担のならないよう力を活かした役割を一緒に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理についてはご家族と相談のうえ小口預り金として保管し買物・必要時に支払いして頂いている。出納は台帳をコピー定期的に送付している。利用者によっては小額を持っている方もいる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬場は地域から外出はできないが、暖かい日は散歩、外気浴に出掛けられるよう支援している。敷地内の畑(花壇)への作物の植え付け、収穫などを行ったりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	街角コンサート、町主催のイベントに利用者様の希望を伺い参加できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	受話器がコードレスなため、事務室、居室でお話ができるよう対応している。手紙等については、権利擁護事業専門員を通してお渡しする方もいらっしゃる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の出入りは自由となっております。面会時間もきめてなく夜間でも可能となっている。お茶を出したり、居心地よく過ごせるよう配慮している。ご本人の近況報告をお話している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼・夜間問わず、身体拘束は行っていない。拘束とはなにか、会議において職員に拘束はしないということを徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室入り口のドアの施錠は利用者様よりの希望のときのみ（入浴時で空室）対応している。夜間においては利用者様自ら施錠する方がいらっしゃいます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室に伺う際はノックをしてからの入室の徹底、夜間は巡視時に安全確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、工具類、電池等は視野に入らないようケースに仕分けして保管している。カミソリについては入浴専用カゴに保管し、常に使用できるよう努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議を通じて、勉強会の開催。学習ファイルに保管し、復習を促している。業務処理報告書をもとに、再発防止の話し合いを今後活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてのマニュアルに基づき、勉強会の開催、事故が発生した場合の対応等、学習ファイルで復習している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合訓練（火災確認・消火による初期消火・避難誘導・消防署通報）を、消防署立会いで指導をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日常生活の中で把握できるものを報告し、対応策を話し合っている。 転倒時、一人で起き上がれない→インターホンの購入		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の中でバイタルチェックを実施し、一覧表に記入するとともに、個人のグラフ表にも記入している。 会話・様子変化を把握し、対応判断に困ったときは管理者の指示を仰ぐこととなっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを活用するとともに、職員は利用者ごとに薬の目的・効能等を承知するとともに、服薬の仕分け、服薬が正しくできるよう支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常より排便確認をし、一覧表に記入し日数を確認し、医師の指示のもと下剤の服用や乳製品の摂取を促がしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、声掛けや介助で口腔ケア残渣物の確認を実施している。義歯は夕食後、義歯洗浄剤につけケースに入れてお預かりし、起床・洗顔時お渡ししている、食事、おやつ等、手洗いうがいを励行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂取カロリーは委託の栄養士が計算しており、水分摂取量、食事摂取量については、一覧表に記入すると共に、介護記録に記入し、一日全体を通じて把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関する取り決めがあり、インフルエンザ予防接種の受診。手洗い、うがいも習慣となり外出後、食前に行っている。トイレ掃除、嘔吐、便の処理の時は塩素系の漂白剤を使用し殺菌に努めている。出入り口には濡れマットにて靴底の消毒に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員の衛生管理はもちろん、ふきん、食器類も煮沸消毒に努め塩素系とアルコール系を使い分け消毒している。冷蔵庫含め調理場における掃除チェック表を担当者が確認記入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関口はデイサービスとは異なるも、ショートステイと同じとなるため、表札が目立たない問題はあるが、長いすを設置し利用者様に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂を兼ねたダイルームはゆったりと過ごせる空間はないが、テレビを見たり、気に入った利用者同士で自由に過ごせる場所となっている。寒い時期は入り口に花鉢を置き楽しんで頂くよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前に椅子を置いたり、花鉢を置いたり、ユニット間を行き来できるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に合わせて馴染みのものを自由に持ち込むことができる。居心地の良い、安心できる居室であるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気扇にて対応していると共に、天気の良い日は窓を開けて喚起を努めている。個人的に気になる方は、消臭剤を使用している。各居室・廊下に床暖房を完備しており、職員の管理により、利用者様に合わせた調節を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの造りと廊下、トイレ、浴室には使いやすいよう手摺りを設置している。ダイルールの椅子は利用者様の状態に合わせて回転式と固定式を用意している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に個別の手作り表札を掛け、トイレも大きな文字で表示。家庭的雰囲気を壊さず、間違い防止策を講じている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外回りに菜園があり、種まき・植え付け・収穫を楽しんでいる。ベランダでは洗濯物、布団干し、プランター、鉢で花を植え、水やりなどで楽しんでいる。散歩を希望されない利用者様には、日向ぼっここの場として利用している。		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が安寧な生活が送れるよう、常に愛情と熱意を持ってケアの質の向上、生活を支えるため職員のお互い自分の果たす役割は何か、常に把握しながら快適な環境をと取り組んでいると共に、追求している。

草津温泉の中心に位置し、隣に協力病院があり緊急時にすぐ対応できる体制にあります。

行事慰問などは、同じ施設内にデイサービス・ショートステイを併設しており、それぞれの利用者様との交流ができます。

ホーム内の室内は明るく、清潔で暖かな優しい雰囲気があり、温泉かけ流しでゆったりと入浴できます。

地域がら半年が積雪により外に出られない中、ホーム内で退屈しないように身体機能維持のため、日常生活において買い物、掃除、共同による製作、入居者同士で助け合い、生活の中で、食事の後片付けなどの役割で利用者様が生き生きと生活されています。

利用者様は穏やかに元気で「出来る事は」は暖かく見守り、「出来ない事」はさり気なく支援しています。